

真理通信

第 117 号 令和 7 年（2025 年）3 月 1 日発行

年 3 回(3・9・12 月)発行



すべての有情（いのちあるもの）の 亡ぶると
また 生ずるとを知りて 著（じゃく）する思いなく
善き逝（おわり）をもつ覚者（もの）
われかかる人を 婆羅門といわん
（法句經 419）

◇ 新・法句經講義 74 ◇

〈※ 「新・法句經講義」は、巻頭ページ掲載の法句經について解説しています。〉

テレビなど見ていて、昔活躍していた俳優さんが久しぶりに出てみると、ああ、随分年とったなあなどと、少し悲しいような寂しい気持ちになることがあります。自分だって相当くたびれてしまったのを棚にあげて、あの人も変わっちゃったとか、昔はカッコ良かったとか、勝手なことを言っているものです。

諸行無常の教えのとおり、すべての人も物も、変わっていくことを、なかなか自分のこととして受け取れないのが、人というものです。

町も、物も、すべてが変わっていきます。ずっと同じものなんてありません。そして、新しいものが生まれてきます。IT 社会なんて、今から 50 年前には、想像も出来なかったものです。新しいものが出現してくることは、恐ろしいことでもあります。で

も、それも諸行無常の道理として受け取らなくてはなりません。

この法句經は、去っていく過去と、生まれてくる未来の間にあって、とらわれなく生き、また去っていく、いさぎよい人の姿、生き方を説いているように思います。

仏教豆知識 93

閼伽

閼伽（あか）という言葉は、一般にはあまり知られていないかも知れません。一方で、僧職にある方は、ほとんどがご存知だと思います。

仏前に供える水のことを「閼伽」と言います。正確には、仏前に供える物のことを言う言葉です。

「あか」の語源は、サンスクリット語の arghya、argha、ともに贈物、捧げ物の意味があります。

「閼伽水」は、密教では本尊に捧げる 6 つの供養物のひとつとして尊重され、儀式の中で大切な役割をにいます。

<主管所感>

生きる感触

友松浩志

今年の正月も、また「正月」を実感できないままに終わったように思う。と言うより、「正月」を実感できたのは、子どもの時代だけだったのかも知れない。

大晦日は真夜中まで起きていられる日で、テレビで紅白を見て、除夜の鐘を聴いて、翌朝はお雑煮を食べた。立派なおせち料理はなかったが、お年玉をもらって、親戚の家に行って、そこでもお年玉をもらった。心の中はウキウキしていた。子ども時代というのは人の原点になるものだ。その時の体験が、「生きる感触」として身体の底に座っている。

食物の好き嫌いも、子ども時代の記憶を反映しているようで、私はジャガイモが大好きだ。ジャガイモさえあれば、ご飯もパンもいらない。その原点は、母の作ってくれたポテトコロケにある。ジャガイモを蒸かして皮をむき、裏ごしし、それにひき肉と

タマネギを炒めたものをまぜる。そんな工程を、母と一緒にした。その思い出が、コロッケの味、ジャガイモの味とともによみがえる。

最近、テレビの公共CMに「子ども食堂」がよく登場する。それを見ていて、この子どもたちの「味の記憶」「生きる感触」はどうなるのだろうと思う。「子どもは社会で育てるもの」と言うが、子どもは工場で生まれるのではない。個々の親、個々の家庭に生まれるものだ。その個々の原点を大切にしたいと思う。

「保育園落ちた、日本死ね」で、大量の保育園が生まれ、もうすぐ「日本」が死にそうである。女性が働きやすい社会をつくるだけでなく、女性が生きやすい社会をつくって欲しい。「子ども食堂」に出すお金があったら、個々の家庭に、ゆとりのある時間とお金を配って欲しい。

「生きる感触」は、人が生まれ、育てられる過程で個々に与えられるものである。ある詩人は、生まれてすぐ里子に出され、里親に育てられた。大人になって、初めての詩集を出すとき、その詩集に「やさしい大工」という名をつけた。里親は、貧しい大工の家庭だったという。

◆ 新年 修正会 ◆

修正会(しゅしょうえ)は新年の平安を祈る行事です。神田寺では毎年元旦、神田寺で行なってきましたが、今年は西墓地別院で行ないました。午後2時から2階で読経のあと、1階の待合室



で懇談。参加者は少なかったものの、新年の抱負などを楽しく語り合いました。

◀西墓地別院で懇談

◆ 森の活動 ◆

真理学園幼稚園は森にかこまれた幼稚園です。その森のことを、みんなでもっとよく知るために森林インストラクターの方に指導していただきました。今回は保護者の方を対象に、森の木の生態、特に冬を生き抜く木々の姿について解説していただきました。春には子どもたちを対象に、森での自然あそびなどを指導していただく予定です。

冬の森の自然を

知る▶



墓地管理方法の変更について

昨年の10月より、附属墓地の管理方法を変更させて頂いております。管理経費の負担を減らすための処置ですので、ご理解のほどお願い申し上げます。

○ 土・日・祭日はこれまで通り、午前9時から午後5時まで、自由にお参りできます。

○ 平日のお参りは予約制です。お参りの2日前までに電話でご予約下さい。

予約電話 03-3251-8683 (墓参の日時をお知らせ下さい。)

○ お彼岸、お盆、年末年始の期間は、曜日に関わらず、上記時間にお参り出来ます。

春のお彼岸期間 3月17日(月)～23日(日)

※ ご親戚、ご友人などにも、是非この内容についてお知らせ頂ければ幸いです。

<真理ニュース>

◆彼岸会

春の彼岸会は、昨秋のお彼岸と同じかたちで実施します。

①法要参加

3月20日(木)午前10時・午後1時に、神田寺会堂で法要を行います。

・法要に参加される方は、同封の申込みハガキでお知らせ下さい。

・神田寺で法要と法話があります。お土産のお寿司の配布があります。

・両墓地まで、大型バスでお送りします。

・当日は両墓地で、読経も随時行ないます。

②塔婆供養

同封のハガキ(春彼岸会塔婆供養申込書)で、事前に受け付けます。

・先祖供養塔婆は、1本:3000円です。

・戒名を入れた個別供養塔婆をご希望の方は、別途官製はがきで

お申込み下さい。(個別供養塔婆は1本:4000円です。)

・お支払いは当日か、同封の振込用紙をご利用下さい。(手数料なし)

③**墓地管理費**も、同封の振替用紙でご送金頂くか、墓地でお支払い下さい。

◆花まつり

お釈迦様の生誕をお祝いする「花まつり」は、本年も白象パレードなどは中止となります。8日(火)に、玄関に花御堂をお飾りします。自由に灌仏(お釈迦様の像に甘茶をかけること)が出来ます。

◆真理舎の会 (法句経による仏教講話)

今年の予定は以下の通りです。

・4月11日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・降誕会)

・6月13日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて

・10月10日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて

・12月12日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・成道会)

※「仏教勤行式」による読経と、友松浩志主管の仏教講話が行なわれます。

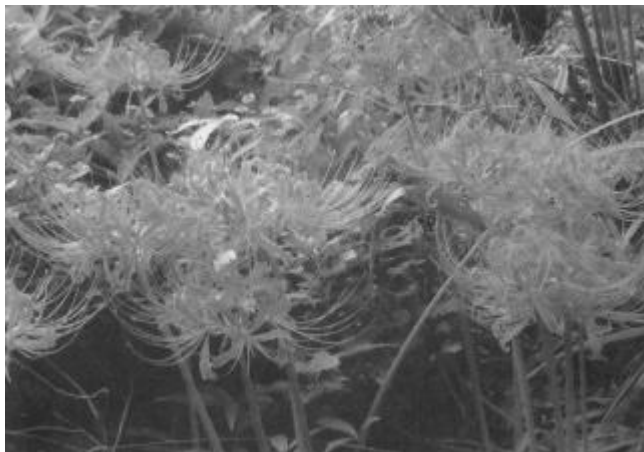
◆世界の政治状況が大きく揺れ動くなか、日本の政治状況も、

次の時代を見据えた局面に入っていくようです。冷静な判断と、未来への思考が必要な時のようです。

真理通信

第 118 号 令和 7 年（2025 年）9 月 1 日発行

年 3 回（3・9・12 月）発行 非売品（本誌の配布にご協力いただければ幸いです）



ひとり坐し ひとり臥（ふ）し

ひとり遊行（ゆぎょう）して

うむことなし

ひとり自己（おのれ）を ととのえ

林間（このま）にありて 心たのしむ

（法句經 305）

◇ 新・法句經講義 75 ◇

＜※ 「新・法句經講義」は、巻頭ページ掲載の法句經について解説しています。＞

最近の都心の喫茶店は、おひとり様の席ばかりで、ゆっくり友だちと話せる場ではなくなっていました。ひとりでパソコンをいじっている人、スマホを見ている人、本を読んでいる人、みんな狭い空間で、それなりに快適に

過ごしているようです。確かに、4 人分のスペースにひとりで座れたら、お店も迷惑なのは分かりますが、会話する場所とか出会いの場的な発想は、もうないような気がします。

ひとりが気楽、ひとりが最高、というのは、何ごとにも便利になった社会だから可能なのかも知れませんが、仏教的な観点から言えば、最も理想に近い生き方が実現されているようにも見えます。

でも勘違いしてはいけません。仏教でいう「ひとり」というのは、勝手にいい気ままでいい「ひとり」ではありません。ひとりだからこそ、より集中すること、行動すること、が要求されます。集中して自己をかえりみて、自らをととのえ、力強く実践し行動しなければなりません。だからこそその「ひとり」であり、そうした「ひとり」だから、人々はその人に施しをしたのです。

◆ 「真理舎の会」終了のお知らせ ◆

「真理舎のつどい」として隔月 1 回行なってきた講話会を、本年末をもって終了させて頂くことになりました。神田寺での仏教講話会は、第 1・第 3 日曜日の、友松圓諦師の「法句經講話」を原点に、2 代諦道師に引き継がれ、途中名称の変更を経て、諦道師が平成 13 年(2001 年)に遷化されて後は、現住職によって続けられてきました。途中隔月の開催となりましたが、現住職になってからでも通算 200 回を超える講話を続けてこられたのは、そこに参加して下さった方々、聴聞して下さった方々のお蔭にほかなりません。厚く厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

以後は、各法要での法話を中心に、誠心お話を続けさせて頂きます。

＜主管所感＞

残された者を生きる

友松浩志

今年は、第 2 次世界大戦(太平洋戦争)終戦後 80 年の年です。

昭和 20 年(1945 年)に誕生した人も 80 歳ですから、戦争を

直接知る人はほとんどおられなくなっています。でも、戦争の記憶というのは、直接の体験ばかりではありません。

戦後を生きた人々の姿、残された人たちの姿は、今でもくつきりと記憶されています。帰ってこなかった夫、子ども、家族を待ち、見送った人々。そうした人たちが、どんな日々を送ったか、私たちは見えています。

先代住職の弟、私の叔父も帰ってこなかった人です。学徒出陣でフィリピンに派遣され消息を絶ちました。祖父母も、父をはじめとする家族も、どんなにその生還を待っていたことか。待って待って、待ちくたびれて、13回忌で墓標を建て、22年目に父がひとりで、最後の任地とされるルソン島北部の小さな島を訪ねています。

戦争や災害によって、多くの残された者が生まれます。いや、それだけでなく、私たちみんなが、残された者になる存在です。残された者になって、どう生きるのか。故人の遺品をひとつひとつ片付けながら、心のなかを整理していく。整理といっても、そんなこと簡単にできるわけがありません。自分の生き方を見つけろと言われても、今までの生き方以外、何ができるというのでしょうか。

もう40年も前、後輩が山で墜落死しました。20歳でした。救出という名の遺体の搬出。あわただしい通夜・葬儀。そのすべてに立ち合われたご両親は、その後毎年、毎年、山麓で行なわれる慰霊祭に参列され、岸壁にはめ込まれた後輩の小さなプレートに、花や供物をたむけ続けられました。そして歳月がたち、やがてお母様が亡くなり、先年お父様も亡くなりました。お二人にとって、その小さなプレートは「生きる道しるべ」だったのかも知れません。

残された者を生きる、それは、形があってもなくても、それぞれの「生きる道しるべ」を見つけて、それを大切に大切に守っていくことなのかも知れません。

◆ 令和6年度・事業報告 ◆ 学校法人

真理学園

学校法人の運営において、その事業内容と評価(自己評価と関係者評価)について広く公表することが義務づけられています。ここでは、令和6年度の事業内容と評価についてお知らせ致します。

■ 事業内容 ■

<法人全体>

・園児減少、職員数減少、の傾向は続き、運営規模の縮小をしな

がら安定的な経営方法を模索してきました。空きスペースを活用しながら、保育内容の充実をはかりました。

・各行事は、ほぼ以前のかたちにもどり、人数が減少した分、ゆとりをもった展開が可能になりました。保護者の参加などより積極的にすすめ、園への理解をはかりました。

<神田寺幼稚園>

・園児は引き続き減少傾向でしたが、満3歳児は多めで、独立してクラスを設けました。

・次年度の応募は若干増加傾向に転じました。

・行事は、連年通りに実施できました。

・年度末、園庭の改修工事を実施しました。

<真理学園幼稚園>

・園児は引き続き減少傾向で、クラス編成を工夫しました。

・新園舎の2階を保護者に開放したり、保護者の保育への自由な参加を促しました。

・年度末、園庭の改修工事を実施し、鉄棒を撤去して子どもの畑を作りました。

■ 事業評価 ■ 以下の意見がありました。

・園児数は減少しているが、保育内容は見えやすく、より充実してきている。

・よい保育者がそろっているが、さらに保育者の数の確保に努力してほしい。

・園の知名度をあげる工夫として、園バスへの園名の記載はよかった。さらに、いろいろな工夫を進めてほしい。



◆ 秋のお彼岸について ◆

今年も、秋のお彼岸が近づいてまいりました。お彼岸は、神田寺の会堂で法要を行ないバスで墓地へ移動して頂くかたちで行なわせて頂きます。

・9月23日(火)午前10時・午後1時の2回 神田寺会堂で法要を行ないます。

(ご参加の有無、参加人数を事前に申込書でお知らせ下さい。)

・法要と法話 友松浩志 住職

・塔婆供養 同封の申込書で、事前に受けつけ致します。

※先祖供養塔婆は、1本:3000円です。

※戒名を入れた個別供養塔婆をご希望の方は、別途官製はがき

でお申込み下さい。

(個別供養塔婆は 1 本:4000 円です。)

※お支払いは当日か、同封の振込用紙をご利用下さい。

※お塔婆は、神田寺で法要が終了後お受け取り下さい。

(法要に参加されない方のお塔婆は、寺で墓地にお建て致します。)

・お土産のお寿司は、神田寺で配布致します。(お一人 1 個)
・両墓地まで、大型バスでお送り致します。(帰りの駅までの送りはありません。)

(バスご利用人数を、事前に申込葉書でお知らせ下さい。)

・当日、両墓地でご希望の方に随時読経を行ないます。

◆ 遊行会のご案内 ◆

久しぶりに遊行会(ゆぎょうえ)を以下の日程で開催します。ふるってご参加下さい。

◎10 月 24 日(金)北鎌倉駅一円覚寺一六国見山登山一下って食事一浄智寺 など

・六国見山(ろっこくけんざん)は、鎌倉の最高峰。知られざる山です。

・登山は簡単な低山歩きです。登山が出来ない方は、北鎌倉で散策をします。

※現地集合・解散の予定です。費用は食事代程度。雨天の場合は、寺巡りのみ実施。

※詳細は別紙ご案内をご覧のうえ、神田寺事務所までお申し込み下さい。

< 真理ニュース >

◆お泊り保育

今年の「お泊まり保育」は、7 月 18 日と 19 日に、神田寺幼稚園と真理学園幼稚園が合同で、真理学園幼稚園の園舎で行ないました。神田寺幼稚園の子ども達は、園バスで八王子まで往復しましたが、自然に恵まれた園舎で一緒に遊んだり、花火を見たり、楽しい時間を過ごすことができました。

◆夏の保育

夏休み中の保育(朝の保育・延長保育を含む)は、例年と同じく希望者に実施しました。

◆墓地管理体制の変更 <平日のお参りは事前申込制>

墓地の管理について、以下のような変更を行なっています。

① 土・日・祭日については、これまで通り 午前 9 時から午後 5 時まで、随時お参りが出来ます。

② お彼岸の前後、お盆の期間、年末年始も、随時お参りが出来ます。

③ 平日のお墓参りは、2 日前(前々日)までに、お電話でご予約をお願い致します。(受付電話:03-3251-8683)

・平日のお参りが少なく、管理費の高騰もありこのような体制にしました。ご理解を頂ければ幸いです。

・ご親戚やお知り合いの方にも、このことを必ずご連絡下さい。現在でも、急な墓参の方がおり、苦慮しております。

◆遊 行 会

10 月 24 日(金)、久しぶりに遊行会を行ないます。秋の鎌倉と、小さな登山を皆様と楽しみたいと思います。

◆真理舎の会

・10 月 10 日(金)午後 1 時 30 分～ 3 時 神田寺仏間にて

・12 月 12 日(金)午後 1 時 30 分～ 3 時神田寺仏間にて(兼・成道会)

※別記の通り、本年度真理舎の会を終了致します。長い年月ご支援・ご参加を頂き、厚く御礼申し上げます。

夏が終わると、かけ足で秋、歳末への歩みが始まります。国内外の政治状況が不安定になっています。正しい判断が難しい時代、冷静に考える力を持ちたいものです。お健やかにお過ごし下さいませよう、お祈り致しております。